

看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
2年	20	地域・在宅看護援助論 I
2年	34	成人看護学援助論 I
2年	38	老年看護学援助論 I
2年	53	領域横断看護実習
3年	60	看護研究 II
3年	63	老年看護学実習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-02				
●					●					
科目名	地域・在宅看護援助論 I				単位認定者	小林 淳子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	地域社会の特性や文化と健康との関連や課題を導き出す方法、地域包括・在宅ケアシステム、療養の場の移行に伴う看護・ケアマネジメントの方法、在宅ケアを支える制度と社会資源などについて学び、地域の人々や様々な機関・専門職種との連携・協働に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 地域で生活する地域・在宅看護の対象者と家族について理解を深める。 2. 地域包括ケアシステムの中での連携・協働について理解できる。 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源・ケアマネジメントの方法について理解できる。 4. 地域アセスメントの意義を理解し方法の基礎を修得できる。									
学修者への期待等	地域・在宅看護概論 I に基づき、地域・在宅看護活動の基本を学ぶ科目です。学修内容が多岐に渡るため予習復習を行い、グループワーク・フィールドワーク等の演習にも積極的に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	地域・在宅看護援助論 I ガイダンス 暮らしの基盤としての地域の理解 地域アセスメント①地域アセスメントの意義・方法				3章-1、地域・在宅看護概論 I 8回目資料を予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)				小林 淳子	
2	地域アセスメント② <フィールドワーク> 地区視診				1回目の授業内容を確認して臨み、配布資料に基づき復習して理解を深めてください (各30分程度)				小林 淳子 真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子	
3	地域アセスメント③ <グループワーク> 地区視診の情報整理・考察				1・2回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、授業を復習して理解を深めてください (1時間程度)					
4	地域アセスメント④ <グループワーク> 既存資料の収集				1回目の授業内容を確認して臨み、配布資料に基づき復習して理解を深めてください (各30分程度)					
5	地域アセスメント⑤ <グループワーク> 既存資料の情報整理・考察				1・3回目の授業内容を確認して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)					
6	地域アセスメント⑥ <グループワーク> 地区視診と既存資料との統合				3・5回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、発表の準備をしてください (1時間程度)					
7	地域アセスメント⑦ 学修成果発表 まとめ				6回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、【授業内課題】レポートを提出してください (1時間程度)					
8	地域・在宅看護におけるケアマネジメント (介護保険)				3章-5について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)				高橋 由美	
9	地域・在宅ケアを支える諸制度と社会資源				4章-1~5について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)				高橋 由美	
10	障がい者に関連する法律および難病法				4章-6~7について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)				真溪 淳子	
11	精神障がい者を支えるケアマネジメントの実際				9回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、【授業内課題】レポートを提出してください (1時間程度)				坂本 由郁 小林 淳子	
12	こどもの在宅療養を支える制度と社会資源				4章-8について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)				真溪 淳子	
13	こどもを支えるケアマネジメントの実際				11回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、【授業内課題】レポートを提出してください (1時間程度)				平原 真紀 小林 淳子	
14	人々の暮らしと地域・在宅看護 (含 事例検討)				1章-1, 2、地域・在宅看護概論 I 2回目資料を予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)				小林 淳子	
15	地域・在宅看護の対象者と家族の理解 (含 事例検討)				2章-1, 2, 3、地域・在宅看護概論 I 3回目資料を予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)				小林 淳子	
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』臺有桂他編、MCメディカ出版									
参考文献	『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス 『国民衛生の動向 2022/2023』厚生労働統計協会									
備考	授業内課題は7・11・13回目のレポート (各10%)、14・15回目の事例検討記録 (10%) で評価し、適宜フィードバックする。第13回の講義は遠隔 (オンライン) で実施する。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
保健師 (自治体等に5年以上勤務) としての実務経験を生かし、地域で生活する人々を支援する看護について理解が深められるように教授する。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-ANS-02				
	●	●								
科目名	成人看護学援助論 I				単位認定者	岡崎 優子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	受講態度
						授業回数	30 回			
授業の概要	慢性期にある患者と家族の特徴、慢性疾患の治療と看護、リハビリテーション看護、がん患者と家族の看護、慢性期の代表的な事例についての看護援助、患者のセルフケアを促進するための技術（インスリン自己注射手技、血糖自己測定、透析内シャント管理、心電図、自己検脈、ペースメーカーの管理、呼吸リハビリテーション）、看護職に必要な放射線の基礎知識や看護の役割を学び、成人期の慢性疾患および慢性的な健康課題を有する人を援助するための基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期にある患者と家族の特徴、慢性疾患の治療と看護（セルフケア・自己管理への看護、社会的支援の獲得）について理解できる。</li> <li>リハビリテーションの特徴、障害に対する受容と適応への看護について理解できる。</li> <li>がん患者と家族の抱える苦痛・生活上の困難、がん治療（化学療法、放射線療法、集学的治療と看護、社会誠意参加への支援（環境と阻害要因）について理解できる。</li> <li>看護職に必要な放射線の基礎、放射線を用いた検査・治療、人への放射線の健康影響・リスク、放射線利用時の被曝に対する防護策が理解できる。</li> <li>慢性期の代表的な事例（呼吸、循環、脳・神経、栄養摂取・消化、代謝、内部環境調整、造血器、生体防御、運動、排泄、感覚機能障害）についての具体的な看護が理解できる。</li> <li>患者のセルフケアを促進するための技術（インスリン自己注射技術、血糖自己測定、透析内シャント管理、心電図、自己検脈、ペースメーカーの管理、呼吸リハビリテーション）ができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> <li>常に“何故？”という問題意識をもって積極的に授業に臨むよう要望する。</li> <li>成人看護学援助論は看護実践能力を養うことを目標にしており、基本から積み重ねた学修が必要となる。1年次の「病態治療学Ⅰ～Ⅳ」、「成人看護学概論」の復習をして、授業に望んでほしい。</li> </ol>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 ガイダンス、慢性期看護とは				教科書①（慢性期看護、慢性疾患を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
2	【講義】 慢性疾患を有する人と家族への援助							岡崎 優子		
3	【講義】 慢性疾患を有する患者のセルフケア、自己管理の看護（セルフマネジメント、学習理論を活用した面接）				成人看護学概論、健康状態別看護Ⅰ（成人期）について復習すること（概ね1時間）			岡崎 優子		
4	【講義】 リハビリテーション看護（リハビリテーションの特徴、障害受容と適応の心理過程と看護）				成人看護学概論、病態治療学Ⅰ（リハビリテーション療法）について復習すること（概ね1時間）			阿部 春美		
5	【講義】 栄養摂取・消化に問題のある患者の看護 事例：胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病				教科書①（消化器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
6	【講義】 栄養摂取・消化に問題のある患者の看護 事例：慢性膵炎、肝炎、肝硬変							岡崎 優子		
7	【講義】 循環器系に問題のある患者の看護 事例：虚血性心疾患、慢性心不全				教科書①（循環器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			阿部 春美		
8	【講義】 循環器系に問題のある患者の看護 事例：不整脈、高血圧							阿部 春美		
9	【実技】 慢性期患者への看護技術1 心電図				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			遠藤 美穂子 阿部 春美 伊藤 茉莉子		
10	【講義】 内部調節機能に問題のある患者の看護 事例：内分泌機能障害				教科書①（代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
11	【講義】 代謝系に問題のある患者の看護 事例：糖尿病、脂質代謝異常症							岡崎 優子		
12	【実技】 慢性期患者への看護技術2 インスリン療法				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子		
13	【実技】 慢性期患者の看護技術3 自己血糖測定				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子		

回	授業計画	準備学修	担当
14	【講義】排泄機能に問題のある患者の看護 事例：慢性腎臓病、腎不全、前立腺がん、膀胱がん	教科書①（腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
15	【実技】慢性期患者への看護技術4 透析内シャント管理	演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）	小倉 真紀
16	【講義】血液・造血器機能に問題がある患者の看護 事例：再生不良性貧血、白血病	病態治療学Ⅱ（血液免疫系）の復習をしていくこと	岡崎 優子
17	【講義】脳・神経系に問題のある患者の看護 事例：脳血管障害、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症	教科書①（脳・神経系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
18	【実技】慢性期患者への看護技術5 ペースメーカーの管理、自己検脈、自己血圧測定	演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）	泉田 さとみ 岡崎 優子
19	【講義】呼吸器系に問題のある患者の看護 事例：気管支喘息、COPD	教科書①（呼吸器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	岡崎 優子
20	【講義】呼吸器系に問題のある患者の看護 事例：肺炎、間質性肺疾患		岡崎 優子
21	【実技】慢性期患者への看護技術6 呼吸リハビリテーション	演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）	伊藤 茉莉子
22	【講義】がんの動向と看護	事前課題の予習を行い、疑問点を明らかにしておく（概ね1時間）	小倉 真紀
23	【講義】がん治療と看護 がん患者の身体的苦痛、浸襲的治療と看護	教科書②（がん患者の看護、治療）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
24	【講義】がん患者の体験を聞く がん患者・家族の心理・社会的苦痛と援助	講義後課題：「がん患者・家族の心理」について、考察をまとめて提出（概ね3時間）	岡崎 優子 鈴木 辰也
25	【実技】慢性期患者の看護技術7 セルフマネジメント支援・相談技術とは	事前課題を学修してくること（概ね1時間）	岡崎 優子
26	【実技】慢性期患者の看護技術8 セルフマネジメント支援・相談技術の実際		岡崎 優子
27	【講義】放射線看護 放射線診療の概要と看護職の役割	教科書④（放射線利用と看護職の役割）について予習してくる（概ね1時間）	阿部 春美
28	【講義】放射線診療の安全管理と看護職の関わり	教科書④放射線被ばくに伴う健康影響を理解する）について予習してくる（概ね1時間）	阿部 春美
29	【講義】感覚機能障害のある患者の看護 事例：中途失明、聴覚障害	病態治療学Ⅱ（感覚機能障害）の復習をしていくこと（概ね1時間）	岡崎 優子
30	【講義】アレルギー・膠原病・感染症患者の看護 事例：アナフィラキシー、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、HIV	病態治療学Ⅱ（免疫系）の復習をしていくこと（概ね1時間）	阿部 春美
教科書	①『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護』鈴木久美編、南江堂 ②『系統看護講座 別巻 がん看護学』小松浩子他著、医学書院 ③『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂 ④『看護と放射線 放射線を正しく理解した看護職であるために』日本アイソトープ協会編、日本アイソトープ協会		
参考文献	病態治療学Ⅰ～Ⅳの教科書：系統看護学講座 成人看護学Ⅰ～Ⅺ 「経過別看護過程の展開」関口恵子監修、学習研究社		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。</li> <li>第9回、12回、13回、18回はA・Bの2クラスに分けて実施する。</li> <li>第12回、13回は上記の担当教員に加え、以下の専任教員、非常勤講師が担当する。 専任教員：阿部春美、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀 非常勤講師：大石慶子、松田郷子</li> </ul>		

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師として成人期の臨床経験を持つ教員、糖尿病看護認定看護師による授業を実施する。また、がん患者を招聘して、がん患者・家族に必要な看護を理解できるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-GNS-02				
	●									
科目名	老年看護学援助論 I				単位認定者	齋藤 美華		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	高齢者が住み慣れた地域で生き生きと生活するための援助方法、高齢者の加齢に伴う変化と生活機能への影響、生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、受療状況に応じた看護、認知症の病態、認知機能検査、多様な生活の場、看護と介護の協働、多職種連携などについて学び、老年看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様な健康問題やニーズをもった高齢者へのケアの特徴を説明できる。</li> <li>2. 超高齢社会における現状と課題を説明できる。</li> <li>3. 高齢者の個々に応じたヘルスプロモーションについて説明できる。</li> <li>4. 高齢者の生活する場や生活形態・様式に沿った看護援助について説明できる。</li> <li>5. 地域包括ケアシステムの概念とその展開について説明できる。</li> <li>6. 老年看護の課題学習や演習に主体的に参加し、自分の考えを表現することができる。</li> <li>7. 高齢者および家族の状況に合わせて援助方法を考え、その根拠を説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	高齢者看護の特性を捉え、そのケア技術の原理を理解した上で、あらゆる健康レベルに応じ、かつ、様々な生活の場における援助の知識・技術を学んでいきましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当者名		
1	高齢者の「豊かな生」への支援 高齢者看護の基本と特徴				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
2	超高齢社会における課題 老年保健とヘルスプロモーション				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
3	高齢者への医療的援助と入院時の援助 外来を受診する高齢者の援助、入院生活への援助 検査、薬物療法を受ける高齢者への援助				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
4	高齢者の退院支援 退院支援のプロセス、高齢者ケアに求められる継続性				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
5	高齢者の療養生活の支援 急性期・回復期・リハビリ期の高齢者の看護				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
6	高齢者の療養生活の支援 慢性期の高齢者への看護、認知障害への援助				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
7	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 在宅・介護保険施設等				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
8	地域で暮らす高齢者の生活を支援する地域包括支援センターの役割				【事後】 授業後感想(学び) (概ね20分)			高橋 秀仁 桑田 恵美子		
9	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援 認知症当事者と家族、認知症当事者と家族の会から学ぶ				【事後】レポート課題 ①認知症当事者、家族の講話より学んだことをまとめる ②当事者、家族をサポートするための看護師の役割を8回目の授業と合わせまとめる (概ね3時間)			若生 栄子 当事者と家族 桑田 恵美子		
10	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援 グループワーク				【事後】 小テスト(概ね30分)			齋藤 美華		
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害』堀井ふき他編集、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践』堀井ふき他編集、MCメディカ出版									
参考文献	『看護学テキストNiCe 老年看護学概論』正木治恵・真田弘美編、南江堂 『看護学テキストNiCe 老年看護学技術』正木治恵・真田弘美編、南江堂 『国民衛生の動向 2022/2023』厚生労働統計協会 令和5年度高齢社会白書：(内閣府 <a href="https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html">https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html</a> ) 公益財団法人 長寿科学振興財団： <a href="https://www.tyojyu.or.jp/index.html">https://www.tyojyu.or.jp/index.html</a>									
備考	授業内課題は小テスト(10%)、授業後の学び(10%)、事後課題レポート(30%)で評価する。 LMSでの授業内課題については、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師として臨床経験を持つ専任教員が担当し、高齢者の特性を捉えた看護実践における知識・技術を習得できるよう教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-05			
		●	●	●					
科目名	領域横断看護実習				単位認定者	岡崎 優子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	3 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間
							授業回数		集中
授業の概要	慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる看護過程の展開と役割を学び、領域を横断する看護の実践能力を身につける。								
学修者への期待等	基礎看護学や成人看護学概論・成人看護学援助論Ⅰ、老年看護学概論・老年看護学援助論Ⅰでの学修をもとに、実習目的を意識して臨んでほしい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年8月19日（月）～9月21日（土） 1グループ：3週間</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台厚生病院、仙台市立病院、東北医科薬科大学病院、東北医科薬科大学若林病院、宮城県立がんセンター</p> <p>III. 実習目的：慢性的な健康問題や治療によりストレス・危機状況にある患者・家族に対し、既習内容を統合した看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な健康問題を持つ患者の看護過程が展開できる</li> <li>2. 看護過程に基づいた看護実践ができる</li> <li>3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる</li> <li>4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる</li> </ol> <p>V. 実習計画：実習スケジュールは、学内実習および病棟実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 領域横断看護実習オリエンテーション</li> <li>2) 慢性的な健康問題にある患者の看護過程の展開と、必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。</li> </ol> </li> <li>2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。</li> <li>2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。</li> <li>3) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、レポートにまとめることで実習での学びと自己の課題を明らかにする。</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	『看護データブック』新井治子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に指示する								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀、阿部春美、二口尚美、佐藤理恵、佐藤由記子、佐藤清湖、佐々木重徳、加藤真理子 非常勤講師 大石慶子、松田郷子、江口美知子、佐々木ゆみ子、佐藤千佳								

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の臨床経験を持つ教員が担当する。慢性的な健康問題を持つ人と療養生活を支える人たちに真摯に向き合い、健康とは何か、看護とは何か、さまざまな角度から考えられるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-05				
		●		●						
科目名	看護研究Ⅱ				単位 認定者	小林 淳子		試験 (レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内 課題等	10 %
					授業形態	演習	授業時間数		16 時間	受講態度
						授業回数	8 回			
授業の概要	実際にケースレポートや論文作成を通して、看護の質向上のために自らの看護実践を省察し研鑽し続けるために看護研究を行う基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 臨地実習で学んだ看護実践を客観的に振り返り、文献を活用しながら自己の看護実践の効果と課題を明確にしてケースレポートを作成することができる。 2. ケースレポートに基づき口頭発表用のパワーポイント (ppt) の作成ができる。									
学修者への 期待等	「看護研究Ⅰ」の学修内容を復習して臨んで下さい。臨地実習における自身の看護実践の効果と課題を考察し、看護実践能力向上につながるケースレポートとなることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護研究Ⅱ ガイダンス ケースレポートの意義・作成のプロセス				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、本授業内容を復習し理解を深めてください (各30分間程度)			小林 淳子		
2	ケースレポート：ケース選択				前期領域実習の受け持ち事例を振り返って臨み、選択した事例の実習記録を確認して下さい (各30分間程度)			小林 淳子		
3	ケースレポート：テーマ検討・決定				選択した事例の実習記録を確認して臨み、指導担当教員決定後連絡を取り助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
4	ケースレポート：文献検索				「看護研究Ⅰ」6・7回目の授業を復習して臨み、指導担当教員の助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 坂村 佐知 備考欄参照		
5	ケースレポート：看護実践の経過				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、ケースレポート作成について指導担当教員から助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
6	ケースレポート：考察・結論・まとめ				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、ケースレポート作成について指導担当教員から助言を受け、ケースレポートを完成させ期限まで提出してください (2時間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
7	プレゼンテーション：口頭発表の方法				「看護研究Ⅰ」8回目の授業を復習して臨み (30分間程度)、プレゼンテーション用のpptを完成させ期限まで提出してください (2時間程度)			小林 淳子 坂村 佐知 備考欄参照		
8	プレゼンテーション：口頭発表				作成したppにより練習をしてプレゼンテーションに臨んでください (2時間程度)			小林 淳子 坂村 佐知		
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他著、医学書院									
参考文献	『文献レビューのきほん』大木秀一著、医歯薬出版株式会社 『看護にいかす文献検索入門：学び続けるための情報探索スキル』富田美加他著、中央法規									
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内課題は7回目プレゼンテーション用ppt (10%) で評価する。</li> <li>受講態度は発表会参加状況 (10%) で評価する。</li> <li>ケースレポート作成においては随時指導担当教員がフィードバックを行う。</li> <li>指導担当教員： 高橋由美、阿部春美、木下美佐子、佐藤幸子、齋藤美華、田辺圭子、佐藤由記子、岡崎優子、佐藤理恵、武田美奈子、阿部幹佳、真溪淳子、二口尚美、佐藤清湖、佐々木重徳、泉田さとみ、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、加藤真理子、手塚有希子、小倉真紀</li> </ul>									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

保健師 (自治体等に5年以上勤務) としての実務経験を生かし、看護実践に基づくケースレポート作成について理解が深められるよう教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-07			
		●	●	●	●				
科目名	老年看護学実習				単位 認定者	桑田 恵美子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の 方法	
				授業形態	実習	授業時間数	120 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	医療と福祉の連携、および老年看護の役割について実践から学び、多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて老年期の対象のニーズをとらえ、老年看護の実践能力を身につける。								
学修者への 期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生きている。生病老死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生きていく人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしてほしい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年5月13日（月）～11月1日（木） 1グループ：3週間</p> <p>II. 実習施設：JR仙台病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院、JCHO仙台南病院、坂総合病院、東北医科薬科大学若林病院、JCHO仙台南病院介護老人保健施設</p> <p>III. 実習目的：様々な健康段階にある高齢者を対象に、医療と福祉の連携とその実際および老年看護の役割について実践から学ぶ</p> <p>IV. 実習目標</p> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>対象の状態を理解するために必要な身体的・精神的・社会的変化が理解できる</li> <li>老年期の対象の特性や状態を理解し、根拠に基づき看護を計画的に実践できる</li> <li>老年期の対象の多様な生活背景による価値観を尊重し、尊厳と権利を擁護するとともに、援助関係・信頼関係を形成できる</li> <li>老年期の対象を取り巻く保健医療福祉における看護職ならびに関連職種の役割を理解し、保健医療福祉サービスの継続に必要な連携・協働について理解できる（退院支援・退院調整の実際）</li> <li>自己の看護実践過程や方法を振り返り、自己の持つ課題、看護実践方法の改善課題を整理し、専門職業人として成長し続ける態度を修得する</li> </ol> <p>【施設実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設の目的・理念、機能、構造、事業概要、災害時の対応が理解できる</li> <li>施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる</li> <li>施設における療養生活の場に必要な支援が理解できる</li> <li>高齢者・家族が望む生活を叶えるため、施設における関連職種の役割、協働・連携について理解できる</li> <li>施設における地域の関係者との連携・協働について理解できる</li> <li>施設実習を振り返り、自己の持つ課題、改善課題を整理し、専門職業人として成長し続ける態度を修得する</li> </ol> <p>【老年看護学実習全体を通して】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実習を通して自己の高齢者観、老年看護の役割を述べるができる</li> </ol> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習全体オリエンテーション</li> <li>看護過程学習</li> <li>介護老人保健施設実習に向けて特別講義</li> <li>各サイクル実習終了後、まとめの会を開催する（日程については後日指示する）</li> </ol> </li> <li>臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>病棟実習</li> <li>介護老人保健施設実習</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害』堀井ふき他編集、MCメディア出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践』堀井ふき他編集、MCメディア出版								
参考文献	『日常生活における高齢者のヘルスアセスメント』 educational-video-online 丸善出版株式会社 『カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術』大塚真理子編著、医歯薬出版 『系統看護学講座 成人看護学1～11』（病態治療学I～IVの教科書） 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』山田律子他編、医学書院 『手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美著他、MCメディア出版								
備考	詳細は後日配付する実習要項を参照 担当者：専任教員 齋藤美華、桑田恵美子 非常勤講師 高橋静子、遠藤理加、佐々木ゆみ子、佐藤千佳 大石淳子、日野和基、高橋学（介護老人保健施設実習オリエンテーション） ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師として高齢者看護の実務経験をもとに、高齢者とその家族に対して老年看護の役割について理解が深められるよう指導する。